災害対策本部棟及び
堀之内体育館建築工事

実施設計の概要

令和７年６月１日

菊川市危機管理部防災強靭化室
教育文化部社会教育課

建物概要①

建物名称

災害対策本部棟と堀之内体育館の複合施設

工事期間

令和７年12月～令和９年５月

設計者

基本設計：アーキウェルワークス一級建築士事務所

実施設計：株式会社綜企画設計

工事費

1,550,000千円（災害対策本部棟：799,700千円／堀之内体育館　：750,300千円）

※解体費等は別途

建物概要②

項目	災害対策本部棟	堀之内体育館
面積	建築面積：408㎡ 延床面積：795㎡	建築面積：1,349㎡ 延床面積：1,580㎡
構造	鉄筋コンクリート造 ２階建て	鉄骨造 一部２階建て
耐震性能	1.8倍（1.2×1.5） ※官庁施設の基準	1.5倍（1.2×1.25） ※県指針の公共施設基準
構造形式	耐震構造	耐震構造

建物ごとの特徴

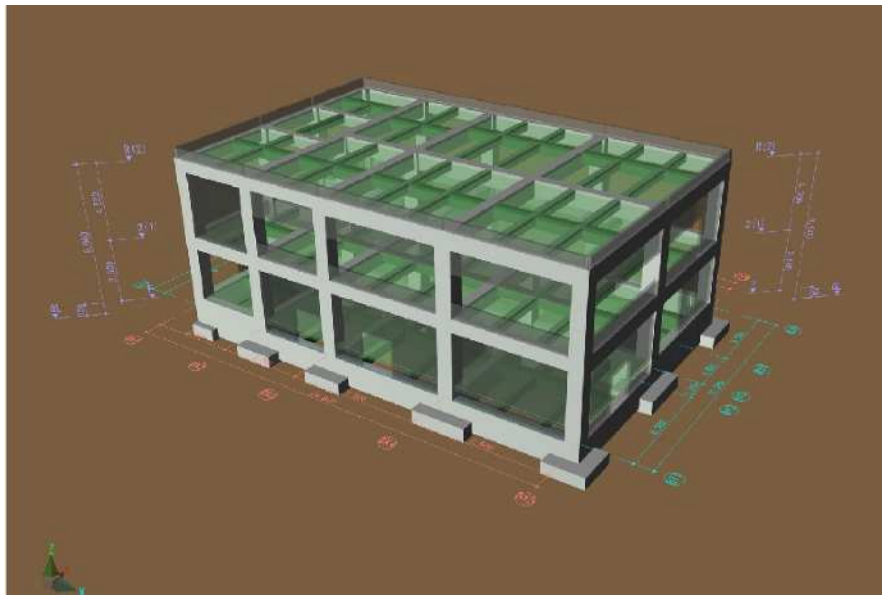
災害対策本部棟

【大規模地震に対する耐震安全性】

・耐震性能を割り増し、地震による構造体の損傷を抑える

・大地震発生時に継続的に使用できるよう、天井と壁の仕上げ材をなくす

・空調機や照明器具を天井に強固に設置する



【インフラの維持①】

・非常用発電設備を設け、連続72時間の電力供給を可能とする（災害対策本部棟のみの供給）

・２系統からの電力供給を可能とする受電設備を設けることで、停電のリスクを軽減する

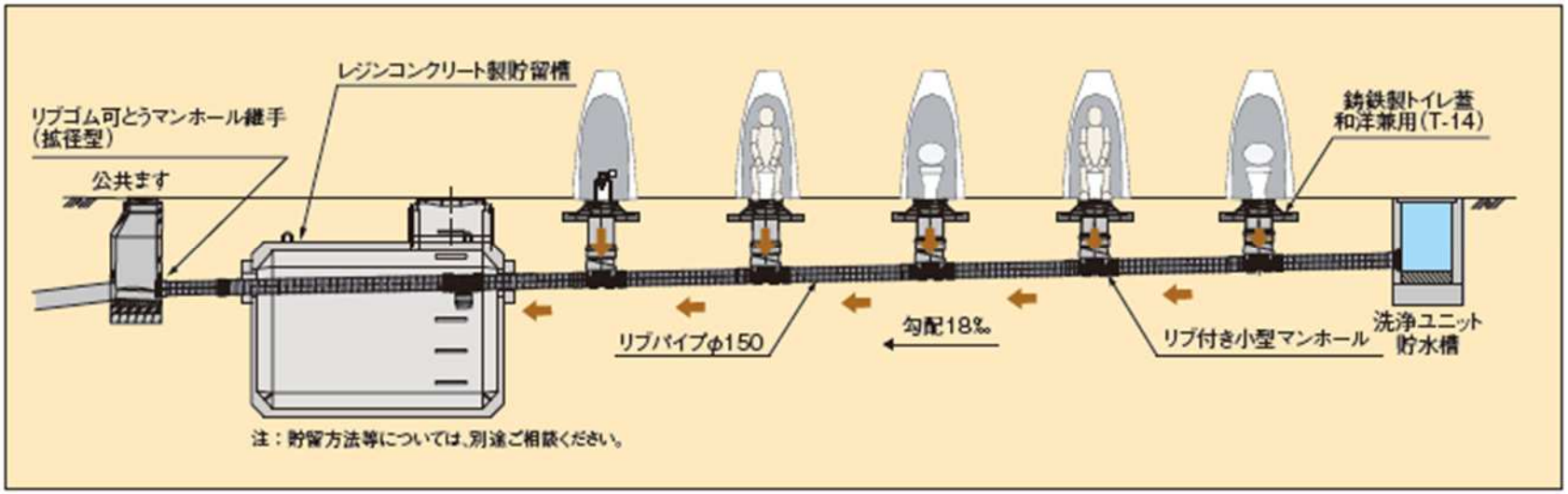
・停電時に電源車など外部からの電力供給を可能とする（体育館分）

【インフラの維持②】

・マンホールトイレを設置し、併せて雨水貯留槽や汚水槽を設ける※能登半島地震を受けて追加

・基本設計では、井戸により地下水を雑用水として活用する計画→水量が少なく安定的に利用できないため取りやめ

・雨水貯留槽を設け、マンホールトイレを使用する際などの雑用水として活用する計画



菊川市危機管理部防災強靭化室
教育文化部社会教育課

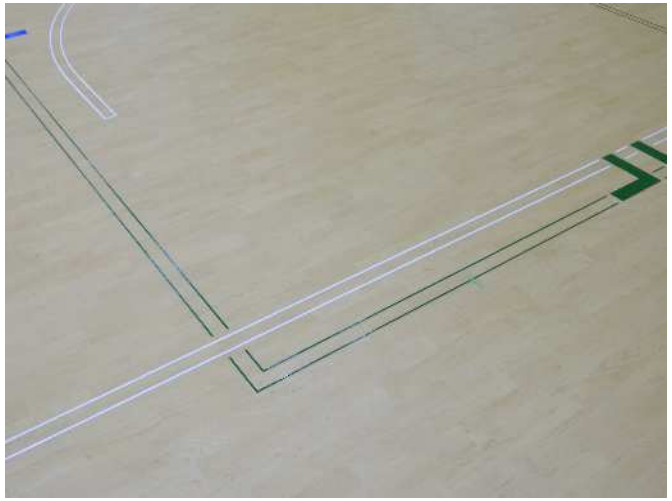
建物ごとの特徴

堀之内体育館

【誰もが安心して使える体育施設】

・アリーナ（競技場）に空調設備を設置し、利用者に快適な環境を提供

・アリーナは、樹脂製の床材とすることで、耐久性と安全性を確保

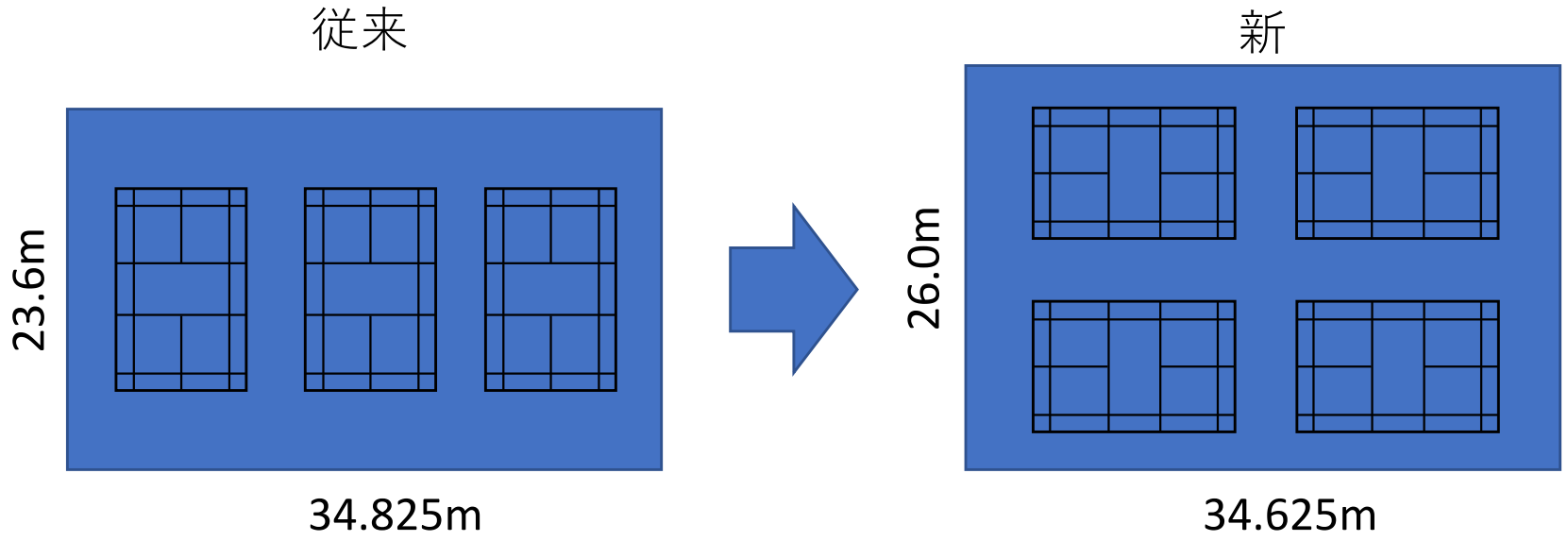


【従来よりも使いやすい体育館】

・ステージをなくし、アリーナを広く

※ステージは可動式で対応

・バトミントンコート４面を確保



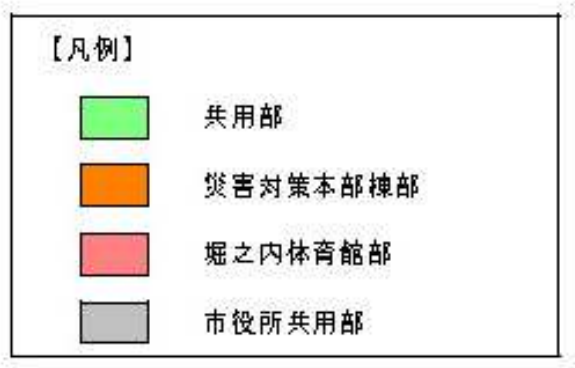
建物ごとの特徴

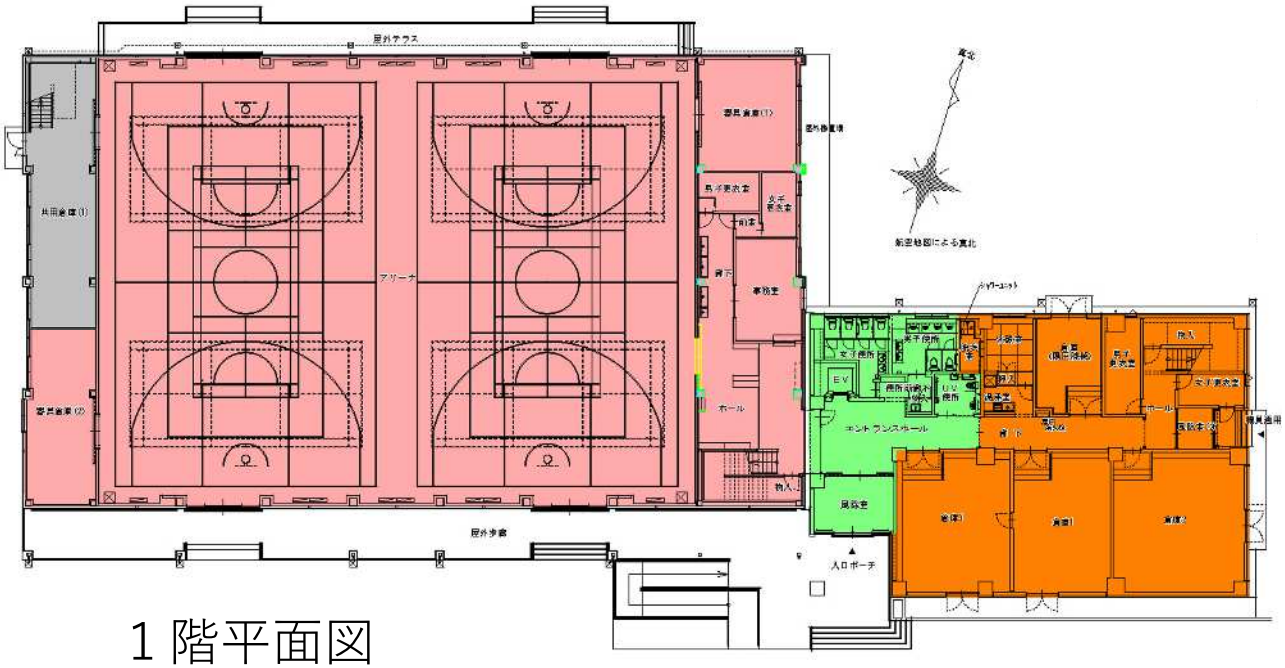
共通事項

【複合施設にすることで効率化】

・災害対策本部棟と堀之内体育館を複合化し、災害時において、体育館に待機する関係機関（自衛隊・警察・ライフライン復旧など）との連携を強化する。

・一つの建物とすることで、出入口やエレベーター、トイレを共有。面積の削減や建築コスト削減につながる。



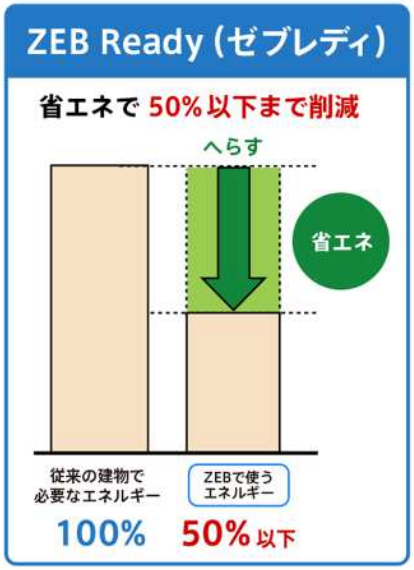


1階平面図

【地球環境に配慮した施設】

・市公共施設で初のＺＥＢ（ﾈｯﾄ・ｾﾞﾛ・ｴﾈﾙｷﾞｰ・ﾋﾞﾙ）認定の取得を目指す

・体育館屋根に太陽光発電パネルを設置し、本施設での消費だけでなく、余剰分を本庁舎でも消費可能とする
※停電時に太陽光による電力供給は不可



体育館利用団体との調整

体育館利用団体等からの意見聴取

・令和５年度に実施した地域代表や体育館利用団体等への意見聴取（新たな体育館への要望や付帯機能）の結果を実施設計に取り入れ

ステージを撤去しフロアを広くする

バトミントンコート４面化

エレベーターの設置

フロアへの空調設備設置　など

・設計内容については、意見聴取に参加した利用団体等へフィードバックした

体育館使用停止期間の対応

・工事期間中は、堀之内体育館が使用できないため、利用団体には他の体育館を使用するよう周知する

・令和７年度の優先予約申込者には、11月から使用出来なくなることを伝え、他の体育館を使用していただくよう依頼した

・現在堀之内体育館にあるスポーツ協会窓口は、工事期間中、市役所本庁舎内に移転し、現在と同様に受付、支払い、鍵の貸出しを継続する

※使用停止期間：Ｒ７.11～Ｒ９.６